

C—46 体型の分類についての研究 (第1報)
——布帛による体型採取とその展開図による
体型分類について——

文化女大家政 三吉満智子

1. 被服構成に必要な人体の metric な計測や、縦切断・横切断体型のシルエットの計測については、各方面で研究されているが、体型そのままの分類・分析については比較的少ない現状である。体型採取には紙型法その他いろいろあるが、今回は被服構成の面から有効な方法として、布帛による体型採取を試み、その展開図による体型分類が可能であるかどうかを検討した結果を報告する。

2. 被検者は20歳～21歳の女子学生20名で、安楽な立位正常姿勢の体幹部の体型を採取した。採取方法は、布帛の組織を体の重心線に対して一軸分割的に水平・垂直に保つことを原則として、立体裁断の技法でタイトフィティングを行なった。体表の外方最突出部を無理なく包む楕円筒状の立体をまず設定し、徐々にダーツ処理によって体表に密着させ、腹部・腰部・大腿部の最突出部から下方は、垂直方向に布帛を垂らしたままにした。この方法の、体型採取およびその展開図の精度については、横切断体型・縦切断体型の採取を別に行なって比較検討した。

3. この方法では、布帛の性質から体表の微量の凹凸や、極端な凹部など採取しにくい面もあるが、逆にいえば、被服構成として必要な体表面のレリーフの単純化がすでに行なわれた結果が採取されるわけで、その点では有利であるといえる。展開図は、二次元に捉える横・縦切断体型の両方を組み合わせた結果が得られ、体型分類に有効と考えられる。